

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	吉原 潤
主な担当科目	インターンシップ①②, フィールドインターンシップ①②, 企画制作演習Ⅰ, 芸術鑑賞①, 芸術鑑賞①, 芸術鑑賞②, 芸術鑑賞②, 芸術特別研究Ⅰ, 芸術特別研究Ⅱ
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	卒業論文では、問題なく卒業できるように学生への指導を行う。また今年度は修士課程のゼミ担当が2年目となり、修士論文の提出の年度となるため、執筆への指導を十分に行いたい。芸術特別研究は、ついに未履修者だけが履修する年度に入り、卒業時に引っかからないように、取りこぼす学生が少しでも減るように努力したい。また、芸術特別研究に代わり新規開講した芸術鑑賞が、今年度に本格的に稼働し始めるため、初期運用を見直しつつ授業運営をしたい。その他の科目でも、シラバスで掲げた教育目標を達成できるように努力したい。
2024年の教育に関する自己評価	卒業論文の履修者1名、修士論文の履修者2名を無事に提出させることができた。芸術特別研究は、今年度は前期科目としての開講とこれまでと変則的な運用となったが、前期で終わる分、取りこぼしが減るように様々な方策を講じた。芸術鑑賞は、今年度は運用2年目となり一定程度の履修者があり、また積み上げ科目である②の履修者も初年度より増加し、授業の運用方法もようやく落ち着いてきたと感じた。他科目についても教育目標はおおむね達成できたと考える。
2024年のFD活動に関する自己評価	全体FDでは日々の業務からはあまり考える余裕のない大局的な観点から、新しい知見が得ることができた。今日の変化のスピードが速い社会情勢と連動して大学の変化は早く、全体FDで最新の動向に触れられるのが大変助かる。アートマネジメント分科会FD研修会は、毎年感じることだが非常勤の先生という外部の視点からの意見が非常に勉強になっている。芸特分科会FDでは、研修テーマを踏まえ、書記の立場で議論をリードし、有意義な意見交換ができた。
授業改善のために取り入れた研修内容	全体FDでは、授業に直結するわけではないが、大学を取り巻く最新のトピックスや状況を知ること、学生への向き合い方など大変参考になった。芸術特別研究分科会FDでは、ほぼ全学1・2年生の必修から選択必修へと変わるという大きな変化の中、学生の在学中や卒業後にいかせる芸術全般の鑑賞のあり方について、各コースの先生方から参考になる意見がうかがえた。またアートマネジメント分科会FDでは、専任教員以外の立場から見る今の学生像は、学内にいると中々に気づけない内容で間接的ではあるが、授業に取り入れられそうである。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2050 教員名:吉原 潤

【芸術運営基礎演習/舞踊学基礎演習】

1)アンケート結果に対する所見

今年度に限っては「舞踊学基礎演習」は、後期の部分を担当し、「芸術運営基礎演習」(後期科目)と同時開講という形で授業運用を行った。ほぼ全部の設問で科目平均が全体平均を上回っており、おおむね履修者から評価を得ているのではないかと。

2)要望への対応・改善方策

自由記述がないため、具体的な要望が分からず、対応・改善方策が打ち出せないが、今年度の高評価を維持するように努めたい。

3)今後の課題

本科目は半期で(「舞踊学基礎演習」は後期)、履修者自身が一つのテーマを定めて、それについて教員のアドバイスを受けつつ調査をし、最終的にプレゼンテーションを行い、レポートを出すことが柱となっていることから、自ら主体的に取り組むことが必要である。しかし、2024年度の「芸術運営基礎演習」の学修時間の科目平均は、全体平均を下回っている。従って、履修者に学修時間を、少なくとも60分以上(全体平均より上回る時間)をかけてもらうように指導したい。

以 上

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2050 教員名:吉原 潤

【企画制作演習Ⅰ】

教員名:古橋 祐、布目 藍人、吉原 潤、柴矢 敏彦、仁科 岡彦、中尾 友彰、渡辺 章

1)アンケート結果に対する所見

アンケート結果の科目の平均が全体平均よりやや低いものの、内訳では「そう思う」「少し思う」で回答されている設問が多いことから、おおむね履修者から評価されているのではないかと考えられます。本科目は、課題に対する企画書の作成・提出と、それに基づくプレゼンテーションが大きな柱となっていることから、それらの準備のために、履修者は全体平均を大きく上回る学修時間をかけており、熱心に取り組んでいる様子がうかがえます。

2)要望への対応・改善方策

自由記述がないため、具体的な要望が分からず、対応・改善方策の検討が難しいが、アンケートの設問において、本科目の平均が全体平均をやや下回ることから、それらについて改善を試みたい。

3)今後の課題

Q6 の授業における分かりやすくするための工夫に「あまり思わない」という回答があること、Q8の履修者による授業の教育到達目標達成の平均が、全体平均よりやや低いことから、出題時の課題の意図について今以上に丁寧な説明を行い、関連講義においても課題に直結する内容を準備したい。また Q9 の高めることが出来た力として、「文化・教養」「多様性理解」のパーセンテージが低いことから、こちらも関連講義で十分に補えるようにしたい。

以 上

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2050 教員名:吉原 潤

【芸術運営実習】

教員名:渡辺 章、吉原 潤、中尾 友彰、星野 友子、高橋 陽子

1)アンケート結果に対する所見

総合満足度は、「そう思う」が 100%であった。一定の評価は得ていると考える。各項目も総じて平均より高い。一方で「Q5.自分はこの授業に興味や関心を持って出席している」の数値が、全体平均よりも若干低いことが気になった。オペラ、バレエ、クラシックからポピュラーまで様々な公演の実習を取り揃えている分、学生各々で興味・関心の低いジャンルの公演がどうしてもあるのかもしれない。

2)要望への対応・改善方策

自由記述欄において、学生からの要望は特になかった。引き続き、学生がプロデューサーとして社会に進出した際に、現場で求められる基本的なマナーやホスピタリティの実践力を備えられるよう、より実践的な学びの場を整備していく必要がある。

3)今後の課題

実際の公演やイベントでのレセプションист体験を充実させるとともに、事前にその意義や役割を深く理解するための講義的要素を強化する。また、現場経験を振り返る機会として、実習後のふりかえりやグループディスカッションの時間を確保し、他者の対応や工夫からも学べる環境づくりに努める。

以 上